

遠慶

おんきょう

専光寺

文政十一年極月十四日
左近将源定信書

新潟教区報 第113号

2016(平成28)年3月1日発行

寺院めぐり 巻組 専光寺

芳雲院 専光寺

慶長八年(一六〇三)に福井県岡本郷貞友村(現・今立郡今立町)より初代の住職が間瀬に参りました。現在は車で四百キロですが、当時は船で移ってきたということがあります。写真の寺号額は松平定信が書いたもので、当時としては珍しい横書きで、「文政十一年 源定信書」の銘があります。明治八年の大火の折、堅く巻いてあったので端が焦げた程度で済みました。松平公は飛び地であった間瀬の領主で、その位牌も残っており、そのためか北国街道を通る大名行列は、毛槍の穂先を下に向けて歩いたと伝えられています。

現在の住職は十五代目ですが、狭い村の中に四つのお寺があります。人口減少・高齢化の進む中、離郷門徒が多くなっております。漁業が盛んな時代、北海道の釧路へ出る人も多く、二代目三代目はそのまま北海道に住み、戻ってくることも少なくなりました。門信徒の三分の二は東京・神奈川・埼玉・釧路に住んでおり、寺報(年二回発行)でこれらの様子をお知らせしています。ご門徒一人一人、仏婦の方々・五人の門徒推進員さんや世話方の皆様に助けられ、美しい海や夕日に心癒され暮らしております。

住所 〒九五三・〇一〇五 新潟市西蒲区間瀬四三七二

寺院めぐりのコーナーでは、教区内の各ご寺院のご紹介をさせていただきます。ご寺院の沿革や由緒、力を入れて取り組んでいる事などを教えてください。ご協力、よろしく願います。

編集/浄土真宗本願寺派

「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会

発行者/新潟教区教務所長 野村宗雄

〒940-2402

新潟県長岡市与板町与板乙4356本願寺新潟別院内

Tel: 0258-72-2120 Fax: 0258-72-2536

2016(平成28)年5月11日(水)

第25代 専如門主
新潟教区ご巡回並びに
本願寺新潟別院ご巡拝

第十八回新潟教区平和を誓う念仏者のつどい 「非戦の誓いを新たに」(戦後七十年の今、戦争を知り考える)

記念講演 講師 志葉 玲氏(フリージャーナリスト)

「戦場から問う安保法制と平和憲法」イラク、パレスチナの取材から

平成二十七年十二月十三日(日)

長岡組 了覚寺 西山 謙介

新潟教区戦後七十年記念事業実行委員会は、二〇一五年十二月十三日、新潟別院本堂において、「第十八回平和を誓う念仏者のつどい」を開催し、教区内僧侶・門徒の皆様はじめ、非戦の願いを同じくする一般市民の皆様など百名を超える方々が参加されました。

講師の志葉 玲さんは、自ら戦場で撮影した写真を紹介しながら、イスラエルのパレスチナ自治区ガザへの攻撃の残虐性や、「IS」を生み出してしまったイラク戦争における米軍の非人道的な軍事行動の実態をリアルに語られ、私たちが求めるべきは、日本国憲法前文にある「平和的生存権」に集約されていると指摘されました。

安倍政権は、イラク戦争時の支援活動(実態は米国支援)の反省すらなく、安全保障関連法を強行採決し自衛隊の海外派遣を推し進めようとしています。私たちはこの講演で、戦争の持つ残酷さと戦場の悲惨さを知ることができました。そして、世界が「対テロ戦争」へと突き進んでいく中、何も知りさえせずに日本が「戦争できる国」となっていくことの恐ろしさを考えることができました。

最後に真数祐孝実行委員長により、非戦に向けた決意と「兵戈無用」の平和な世界実現への私たちの願いを込めた「戦後七十年を機縁としての非戦・平和に向けたアピール文」が述べられ、閉会しました。



全戦没者追悼法要



パネル展

(手前が志葉氏、後方が宗派のパネル)

第二十五代 専如門主 新潟教区ご巡回並びに

本願寺新潟別院ご巡拝について

二〇一六(平成二十八)年五月十一日(水)

本年秋よりご修行となります。伝灯奉告法要に向け、新潟教区の僧侶、寺族、門信徒、ご縁の薄い方々との交流を図り、宗門の諸活動のさらなる推進に資する機縁となるべく、左記の日程で専如門主が新潟教区ご巡回並びに本願寺新潟別院ご巡拝をされます。

この趣旨のもと、記念式典・行事に先立ちご門主様と同世代の僧侶・門信徒との懇談会が開催されます。日程中、ご門主様が参拝者と一緒に参加されます。記念行事では、教区保育連盟加盟園児による太鼓の演奏と教区内寺院コーラスグループによる仏教讃歌の合唱が催されます。

皆様にはご縁の薄い若い方などお誘いのうえ、是非ともご参拝になりますようご案内いたします。今後、実行委員会を結成し、具体的な内容の検討や準備を進めてまいります。ご協力の程、お願いいたします。

ご門主様ご巡回・ご巡拝日程

時間	内容
13:00	記念式典 ・ご門主様ご焼香 ・勤行 ・「伝灯奉告法要についての御消息」ご親読 ・御消息拝受 ・随行長挨拶 ・恩徳讃 記念布教
	(休憩 15分)
	記念行事 ・園児による太鼓の演奏 ・教区内寺院コーラスグループによる合唱 ・ご門主様お言葉
15:00頃	閉会

新潟教区活動報告(2015年11月後半～2016年2月前半)

11月	
13日(金)	新潟教区仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟合同研修会『葬送儀礼の本来の意義』(51名参加) 講 師：雲林 重正 氏(本願寺派布教使・与板組 浄秀寺) 本願寺新潟別院において、教区実践運動推進委員会仏事・勤式研究部会で作成された『法要儀式に関するリーフレット』をもとに、葬送儀礼の本来の意義、身近な人の死を通して真実の教に導かれてゆく大事なご縁であることを学びました。
15日(日)	第33回新潟教区仏教壮年研修大会『家族礼拝をすすめていこう』(三条組主管・163名参加) 講 師：石本 龍憲 氏(前仏教壮年会連盟活動推進講師・東海教区員弁組 浄光寺) 三条組長念寺にて、小・中学生を中心に50名の子ども達も一緒に参加しての大会が開催され、大人と子どもが共に話を聞くことにより、家族で一緒にお参りすることや、お念仏の中に生きるよるこびをあらゆる世代に伝えていくことの大切さを学ぶことができ、テーマに沿った充実した大会となりました。
16日(月)	連研のための研究会『差別問題をテーマとして実施する際の連研の進め方・まとめ方』～「差別はなくならない」という課題の克服に向けて～(25名参加) 講 師：棚原 正智 氏(連研中央講師・兵庫教区神姫組 光輪寺) 差別が社会的・国民的課題であるということをしかりと認識し、「差別はなくならない」ではなく一人一人が差別をなくすという意識を持って取り組む必要があることについて学びを深め、確認がなされました。
17日(火)	『御同朋の社会をめざす運動』推進現地学習会「長野県の部落解放運動の現状」(20名参加) 講 師：常盤井 智行 氏(飯山市人権同和男女共同参画地域推進員・長野教区飯山組 明徳寺) 高橋 五男 氏(部落解放同盟飯山市協議会書記長) いいやま人権福祉センターにて、現地における今尚続く厳しい部落差別の現実を聴き、実態を見学し、差別に苦しみ側の立場に立ち、寄り添っていかうとすることが差別問題・人権問題の取り組みにおいて非常に大切であることを改めて確認することができました。
12月	
3日(木)	グリーンヒル与板報恩講(19名参加) 介護老人保健施設グリーンヒル与板において、おつとめ・法話会・光林寺コーラスによる歌で入所者の方々と触れ合い、楽しいひと時を過ごしました。
5日(土)～6日(日)	第1連区「寺院仏壮結成に向けた研修会」・「仏壮連絡協議会」(東北教区担当・教区内参加者5名) 講 師：榮 俊英 氏(宗派仏壮連盟事務局長) 仙台別院にて、阿弥陀様のみ教えに学び、伝えさせていただく中で、私たちは次世代の若い人たちに対して一体何を残していけるのかということ、現在の活動の中でしっかりと考えていくことの重要性を確認することができました。協議会では各教区仏壮連盟の会費の金額や「教区仏壮連盟代表者参拝」等について、協議・確認がなされました。
9日(水)～10日(木)	第1連区青年布教使研修会『自信教人信』～現代と浄土真宗～(25名参加) 講 師：西原 祐治 氏(本願寺派布教使・東京教区千葉組 西方寺) 長岡組長永寺にて講師より現代という苦しみを否定する時代からの解放についての講義、ご安心にこたわる真宗という問題提起をうけて現代の伝道についての話し合いと3名の布教実演が行われました。
13日(日)	第18回平和を誓う念仏者の集い『「非戦の誓いを新たに」～戦後70年の今、戦争を知り考える～』(100余名参加) 講 師：志葉 玲 氏(フリージャーナリスト) 戦後70年記念事業、第18回平和を誓う念仏者の集いが行われました。併せて、志葉玲氏及び宗派よりの、戦争に関するパネル展示会を行いました。詳細は2ページをご覧ください。
27日(日)	新潟教区仏教青年連盟「教区の集い」(42名参加) 講 師：松月 博宣 氏(本願寺派布教使・福岡教区志摩組 海徳寺) 三条組長念寺において「長念寺仏教青年会 冬の集い」と共催にて「教区の集い」が行われました。正信偈のおつとめ・ご法話の後、鍋パーティーが行われ、参加者同士の交流を深めました。
31日(木)	本願寺新潟別院 除夜会(出勤・参拝者6名) 23時よりの除夜会に引き続き、除夜の鐘つき(およそ50名参加)
2016年1月	
1日(金)	本願寺新潟別院 元旦会(2名参拝)
20日(水)	平成24・25年度 第1連区布教使研修会 差別発言問題等新潟教区布教団研修会(9名参加) 講 師：麻田 秀潤 氏(同和教育振興会評議員・元上組 極楽寺) ホテルニューオータニ長岡において、第1連区布教使研修会における差別発言問題を受けて、差別事象に第三者はなく加差別が被差別しかない当事者であることから、自らの課題とし、取り組みを続ける必要がある事を学習しました。
2月	
14日(日)	連研履修者研修会『み教えからの気づき』(43名参加) 講 師：井上 慶真 氏(連研中央講師・長野教区飯山組 正行寺) 三条ロイヤルホテルにて、氏神や地域の神社とのかかわりについて、住職・僧侶・門信徒の区別無く、自分自身の中にある「神」「神道性」に向き合うことが真の取り組みであり、その取り組みから学び、気付かせていただくことの大切さを確認することができました。

法話 ⑦

与板組 光源寺 清水 正朋

他力回向の信

親鸞様のみ教えは、他力回向の信心であるところに特徴があるといわれます。信ずるという言葉に、大分して確信の信と、通信の信と二つあるといわれます。

確信の信とは、確固たる信念という意で、確固とは強きの意、信念は願望の念(おもい)を指します。

宝くじを例題に考えてみますと、くじの購入時は、当選の可否は未確定です。確定するのは当選発表の後でしょう。その不確定な結果に対して、「当たるんだ」と強く、いだく願望の念を確信といい、信ずると使っているのです。よって、「確信」は、今すでに確定していることについては使わない言葉です。

今一つの通信の信は、およそ信ずるという言葉とは無関係のように思われますが、他力の信の性格をよく表した用例といえます。

通信とは、発信されたものと受信されたものが、相違わず、受信の根拠は発信にある点の特徴です。宗祖・列祖の上で、信心を「まことのこころ」と訓じておられます。

確信の信は、信の対象である阿弥陀仏の勅命を無視して勝手に念(おもい)をいだくこととすし、通信の信は、信ずる対象の名号法が根拠で、その名号法のほかに信は無しという点が異なります。

御文章五帖目の十三通にも、「されば信心をとるといふも、この六字のうちにもれりとしるべし。さらに別に信心とて六字のほかにほあるべからざるものなり」とご教示からも窺えます。

六字のはたらきのとおりに領受した他力の信には、六字の力がこもるのです。「必ず往生成仏させる」との名号法のはたらきを領受した信心には、自ずと現生の利益として、往生成仏するべき身につき定まるといふ結果が伴います。

私のお浄土参りの根拠は阿弥陀様のおはたらきに他ならないのであります。

稱名

法話のコーナーでは、新潟教区内の本願派布教使の方々に原稿を依頼しております。

○今後の予定

ご関係の皆様、多くのご参拝、ご参加をお待ちしております。

・若い女性聞法の集い

日時 平成28年3月5日(土) 13時30分より
会場 本願寺新潟別院
テーマ 「みんなで歌いましょう」
講師 野村 佳代 氏(得度習礼所・教師教修所講師・兵庫教区)

・得度習礼講習会

日時 平成28年3月6日(日) 10時30分より
会場 本願寺新潟別院

・新潟別院常例法座

日時 平成28年3月9日(水) 10時30分より
会場 本願寺新潟別院
講師 艸香 雄道 氏(本願寺派布教使・東京教区)

・社会問題研修会

日時 平成28年3月15日(火) 13時30分より
会場 本願寺新潟別院
テーマ 「原発のない未来を！― 柏崎刈羽原発の現実―」
講師 桑原 三恵 氏(いのち・原発を考える新潟女性の会代表)

・同朋運動推進研修会

日時 平成28年3月17日(木)
会場 新潟県立人間と環境のふれあい館(新潟市北区前新田)
テーマ 「新潟水保病公式確認50年に学ぶ」
講師 塚田 真弘 氏(新潟県立人間と環境のふれあい館館長)

ラジオ法話

新潟教区布教団による ラジオ法話
FMながあか 80.7
毎週月曜(金曜) 16時15分より放送中です。
(放送地域は、長岡市全域、小千谷市、小国、川口、山古志、出雲崎、寺泊、和島、与板、見附、中之島、板尾)

身元調査 しない させない 許さない